

Q9 計算はできるのに、文章題が苦手な子どもにはどのように対応したらよいでしょうか

子どもの状態

同じパターンの問題が続くときは解けるが、パターンが変わったり、長くなったりすると分からなくなる。

問題文から数字を選び出し、適当に式を作って答えてしまう。

状態の理解のポイント

- ・ 文字を読むことが難しい。
- ・ 使われている単語の意味や「これ」、「それ」などの代名詞や助詞等の意味が分からず、文章の読み取りができない。
- ・ 数同士の関係が分からなかったり、数概念が弱かったりする。
- ・ 何を問われているのかが分からない。

考えられる対応

読みでつまづいている子どもには、教師が問題文を読むなどの配慮をする。

「合わせて」、「全部で」、「残りは」、「違いは」など、キーワードをパターン化させて文章の理解を促すようにする。

問題を読むときに、要点にマーカー等で印を付け、「なにが問われているか」書かれている部分に線を引くなど、答えるべきことを明確にする。(図100)

問題の文章に沿って、具体物を使って操作・再現をさせ、視覚的な理解を促すようにする。(図101)

最初は教師がやってみせる。

自分でする。

教師が絵や図で表してみせる。

自分で絵や図に表す。

絵などを基に、子ども自身が簡単な問題文の作成をして文章問題に抵抗がないようにしたり、その問題を教師や周囲の子どもと一緒に考えて、自信を付けさせたりする。

家庭においては、買い物など実際の経験を通して、語いを増やしたり、数の概念を形成したりする。

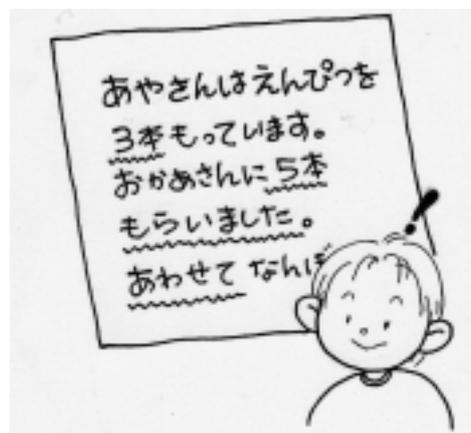


図100 マーカーの印



図101 具体物の操作